

「日々精進」

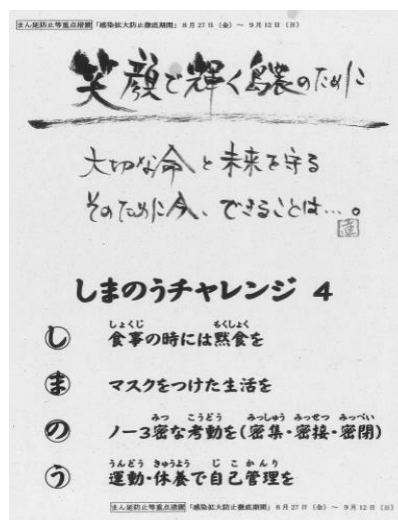
校長 前田 達彦

皆さんが揃って令和3年度 第2学期を迎えることができ、とても嬉しく思います。

先般、8月19日に長崎県独自の緊急事態宣言が、そして8月27日からは長崎市と佐世保市に「まん延防止等重点措置」が出されました。現在も継続中で、どちらも9月12日までの予定で発令されています。

コロナに関しては、残念ながら今までで最も警戒すべき時期となっています。これまで始業式や終業式は、感染対策を十分に行い、体育館で実施をしてきました。こうした節目には、皆さんがお互いに顔を合わせ、同じ思いや、同じ気持ちになれるよう、一堂に会して行いたい、そして私も皆さん一人一人の表情を見ながら話をしたい、という思いがあったからです。しかし、今回は断念をいたしました。私は、このような形での始業式ははじめてです。今は感染リスクを少しでも少なくすべきと判断しました。

コロナ感染拡大のニュースも随分長く続いています。慣れによって対策が雑になるのではなく、緊張感を維持しつつ、今こそ丁寧な対応が必要です。恐怖を煽るつもりはありませんが、この始業式のスタイル、目の前にある皆さんの机のアクリル板（デスクパーテーション）、いつもと違うこの状況から、正しい危機感を共有してほしいと思います。「笑顔で輝く島農のために」、「大切な命と未来を守るために」、今できることを丁寧に、かつ本気で取組んでほしいと思っています。



さて、第2学期は皆さんにとって長くて大切な学期です。特に3年生は、進路実現のための重要な時期になってきます。今、何を優先すべきか、どう振舞うべきか、よく考えて動いてほしい、慌てず、一つずつ丁寧に取り組んでほしい、今がまさにその時です。3年生諸君、夏休みから第2学期へ、就職試験から体育祭へ、そして進学試験や農業祭へと、こうした変わり目、節目に、迅速な気持ちの切り替えができることを期待しています。

すべての学校活動における「成功の鍵」は学校全体のまとまり、つまり皆さんの「団結」「連携」「協力」であると思います。1学期の終業式でも話したように、日頃から、互いに相手を「思いやる気持ち」をもって、各クラスや各学科、そして、全校生徒の中で、信頼や絆を深め合ってほしいと思います。何かをやり終えた時に、「良かった」「感動した」と思えるような結果を目指してください。

ところで、長崎県出身で、今回の東京オリンピック柔道競技81kg級で見事、金メダルを獲得した 永瀬 貴規さん（県民栄誉賞受賞）は、以前、次のような話をしています。

「けがも、試合で結果を残せなかった時期も、無駄な時間だったとは思っていない。どん底の時期を味わったからこそ、精神面でも強くなれた」と言っています。

2016年のリオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲得した永瀬さんは、次の大会に向けて頑張っていたそうですが、2017年の世界選手権で、右膝靭帯断裂という大けがを負ってしまい、手術をして1年以上も第一線から退き、リハビリの日々に耐えていたそうです。その時のことを振り返っての言葉だと思います。



日々精進

痛みや苦しみ、そして焦りや悔しさもあったことでしょう。しかし、決して腐ることなく、地道に努力を重ねたことが、世界の頂点に立つという結果に繋がったのではないのでしょうか。誰もができませんが、長崎県出身の若者が成し遂げたこの快挙に心から敬意を表し、また皆さんとともに「日々精進」することの大切さを心に刻みたいと思ったところです。永瀬さんの好きな言葉（座右の銘）は「日々精進」だそうです。

第2学期のスタートに当たって、どうか皆さん、それぞれ少し考えてみてください。そしてぜひ「日々精進」しながら、前に進んでほしいと期待します。

(第2学期始業式 校長訓話より抜粋)